

学校教育目標	めざす子どもの姿（中期的目標）	総合評価					
かしこく	○課題や疑問をもち、よく考えて解決する子 ○状況を判断し、正しい行動をする子 ○話をよく聞き、自分の考えを正しく伝える子	昨年度に引き続き、コロナ禍という特殊な状況ではあったが、中長期的目標に沿った教育課程を推進することができた。特に、学力向上の面では、Chromebookの利活用に焦点を当てたユニバーサルデザイン化の推進と外国語(外国語活動)の研究を軸に、「主体的・対話的な学びはどうあるべきか」について活動内容や場のあり方をおして学びあうことができた。次年度も同じような状況になると思うが、再度「主体的・対話的な学び」についての研究を深めていきたい。 また、プライド5や「さん・くん」呼びなど、教職員の押し付けにならないように児童自らが考えられるような進め方をしていく必要がある。児童会活動とのタイアップを考えていきたい。					
やさしく	○物を大切に使い、生き物の命を大切にする子 ○感謝の気持ちを素直に伝える子 ○自分との違いを認め、誰とでも仲よくする子						
たくましく	○体を動かしたり運動したりすることを楽しむ子 ○決めたことをあきらめないでやりとおす子 ○すききらいなく食べ、健康な体をつくる子						
今年度の重点目標		成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
①	①かかわり合いのある「主体的・対話的」な授業の実施（学力向上）	授業のUD化や外国語(外国語活動)の時間を軸に主体性は高められた。		○			対話が生まれるような場の設定の在り方について具体的な実践をもとに研究を深めていく。
②	②互いの「良さ」をわかり合える学級・学年づくり（生命尊重）	プライド5を児童に浸透させ、「ありがとう」「笑顔」を大事にする校風ができつつある。		○			職員の押し付けではなく、児童会等、子どもからの声を生かしながら定着させていきたい。
③	③目当てを持って運動や活動に取り組む集団づくり（健康・体力向上）	授業の中だけでなく、Long Lunchtimeという時間を設け、遊びを通して体を動かすことの楽しさを味わえる児童が増えてきた。		○			授業では「めあてを持ち、振り返る、次時につなげる」スパイラルな学びを意識して取り組んでいく。

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
教育課程	教育課程	① 各教科における表現活動の充実	各教科・総合的な学習の時間の学習場面で、自分の考えを表したり、他者の考えを受け止めたりして自分の考えを深めることができたか。	学習形態が一斉授業形式になりがちになり、教師主導の授業が多かった。コロナ禍だからこそ、児童が主体となり、イニシアチブをとることができるような形態にしたい。		○			生活科や総合的な学習を大事にし、教室以外に学びの場を求めていく。自然から学ぶ、塩田の文化財から学ぶという視点を大事にしたい。
		② 道徳教育・人権教育の充実	自分の考えをもち、自分とは異なった考えを持つ相手の立場にたった言動ができるようになったか。	週1時間の道徳の時間を大切にし、人権教育等、多様性の重要性を学ぶことに取り組めた。相手の気持ちを考えて表現できる子が増えた。	○				一方的な教師の教え込みではなく、子どもが主体的に考えられるように児童会の場など活用しながら考えられるようにしていく。子どもの実態に合った学びにつなげる。
		③ 特別活動の充実	目当てをもって行動するとともに、自分の行動を振り返り、次の行動へのめあてをもつことができているか。	日常生活の中で、めあてを明確にし、見通しを持たせることで行動につなげることができた。自分で考えて行動できる子が増えてきた。振り返らせ方に課題が残った。		○			授業では、Chromebookを活用し、振り返らせていく。振り返りの集積を次の取り組みにつなげていく。
学習指導	学習指導	④ 読む活動の充実	朝読書、読み聞かせ、図書館の時間などの読書活動を教師の積極的なかかわりによって充実させているか。	ボランティアによる読み聞かせ、朝読書を低学年は毎日、高学年は週に2日位置付けて取り組んできたことで、本を読む環境づくりは整ってきた。しかし、読書活動の啓発については担任次第といった面も見られ、課題が残る。		○			読書の時間を明確に設定することと、司書教諭が中心となった全校で足並みをそろえた読書活動を展開していく。図書館教育にかかわる職員研修を行いたい。
		⑤ 授業の充実	考える活動、表現する活動を意識した授業に取り組み、主体的・対話的な学習が活発に展開されているか。	子どもの表現する場を設けることに重点を置き、コロナ禍でもできる限り取り組んだ。1時間の授業にメリハリをつけ、課題や児童の様子に合わせて考える時間を弾力的に確保し、考える力をつけることができた。		○			主体的・対話的な学習を行うためにペア、グループなどの学習を授業の中に意図的に位置付けていく。
		⑥ 家庭学習の充実	基礎の定着及び学習への意欲を高める家庭学習が位置づけられているか。	朝学習の時間や宿題などで、基礎の定着を図ることができた。家庭学習への取り組みは、家庭環境により、取り組み方に差が出た。		○			基礎の定着を図るために、Chromebookの活用を積極的に行っていく。
生徒指導	生徒指導	⑦ 基本的生活習慣の充実	自分からするあいさつ、「～くん、～さん」の友の呼び方、靴のかかとそろえ、時間のけじめなどの基本的習慣が日常的に身につくような指導がされていたか。	教職員の意識改革が難しい。やる先生とやらない先生の差ができている。職員の意識を高める必要がある。			○		職員研修を行い、職員の意識改革を行っていく。ま同時に啓発もしていく。
		⑧ 自他を大切にする気持ちの醸成	学校生活全般で相手を意識させ、互いの気持ちを考えたり、相手に寄り添った行動がとれたりする場面を日常的に取り入れることができたか。	人権教育を通常の授業に確実に位置付けたりして日常指導してきたことで相手に寄り添い、考えられる子どもが増えてきた。活動場面での差が見られる。		○			相手意識を高めるために、必要感のある活動を設定していく。そうした活動の中で自分がどうしたらいいのか考えさせていく。
学校運営	学校運営	⑨ 地域に根ざした学習の充実	地域の自然・人材・文化財から学ぶ学習を仕組み、豊かな体験を通して人や物との関わりを学ぶ学習をすすめることができたか。	昨年度同様、コロナ禍で、地域の人材や文化財から学ぶ機会を設けることが難しかった。しかし、状況を見て、少しずつ改善が図られるようになってきた。		○			コロナ禍で学校に人材を招いて学ぶことがあまりできない分、地域に出かけ、地域の文化財から学ぶ機会を設けていく。
		⑩ 情報の発信と連携	学校公開、学校・学年・学級便りなどを通して児童の様子や学校の願いを伝え、保護者・地域との連携に努めているか。	保護者アンケートからはコロナ禍の状況で学校がよく対応してくれているとの評価が多かった。HPを通して学校の様子を知ることができるといった意見もあった。		○			昨年度同様、授業参観は密にならないように日にちを分け、多くの保護者が授業を見られるようにしていく。また、学校だより、HPは今年度同様に取り組む。
		⑪ 授業の改善	明確な自己課題を持ち、その解決のために授業公開や各種研修に積極的に関わり自己研修に努めているか。	校外に出るような機会はあまりなかったが、職員研修として学びあう機会を設定できた。学力向上委員会による授業改善も効果があった。		○			校内研修に力を入れ、先輩から学んだり、専門的な知識を持つ先生方から学ぶ機会を職員会の時間を使って持つ。